

# 自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

## ○記入方法

### [取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

### [取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

### [取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

### [特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## ○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム福平
(ユニット名)	1階
所在地 (県・市町村名)	鹿児島市
記入者名 (管理者)	富田 裕子
記入日	平成 21年 4月 24日

(様式1)

## 自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
<b>1. 理念と共有</b>			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	入居者一人ひとりが地域や家庭において、当たり前前に暮らしてきた生活。朝、カーテンを開けお日様の光を感じ、心地良く目覚める、当たり前前の事が、当たり前前に出来る、幸せを重ねていけるような、生活が継続出来るよう理念を作り上げている。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎日の申し送り時に、理念を唱和している。理念は、スタッフルーム、玄関、和室に掲示しており、日々念頭において実践出来る様取り組んでいる。職員は、日々の生活場面において、一人ひとりその人らしい生活を把握しており、実践に向けて取り組んでいる。	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	玄関・ホールに、理念を掲示すると共に、契約時に説明を行っている。	
<b>2. 地域との支えあい</b>			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	積極的に挨拶を行うよう心掛け、散歩等外出時も積極的に声を掛けるように努めている。年末に餅つきを行った際は、近隣の子供達も参加し、賑やかなひと時が過ごせた。	
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地元の中学校の資源回収の際に駐車場を提供したり、又回収物も協力したり、野菜作りの指導を仰いだりしながら地域との交流に努めている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	入所の全利用者への支援は当然の事ながら、地域社会でもホームの存在感を示しつつ、地域の高齢者の心の拠り所となるべく活動が出来る様活かし方を探して行きたい。	
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>			
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の意義は職員も充分理解しており、評価を受けることにより、ホームのケアの質を向上させ職員自身もより高いケアを身に付けられる事を理解している。	
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回地域の方、民生委員、地域包括支援センター等に参加を願い、その時々課題点や問題点を提起して意見交換を行う会となっている。ホームが利用している調剤薬局の管理薬剤師、鍼灸師等も参加し多方面からの意見も新しい気づきがある。	
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	南部保健センターで献立について、アドバイスをもらうことで、食事のバランス、糖尿病食、高血圧症食について知識を得ている。	
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	実際に成年後見人制度利用者も入居しており、日々の生活の中で各々対応している状況を必要に応じて報告するなど活用している。	
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に身体拘束委員会を行い高齢者虐待防止関連法について学び事業所内で虐待が見過ごされないよう努めている。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に、契約書、重要事項説明書の内容を読みあげながら説明を行い、不安、疑問点には、その都度質問を受け、確認しながら説明を行っている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々のケアの中で利用者の意見、不満、苦情等を引き出せる環境作りを心掛けている。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ご家族には請求書送付時に、ホームでの様子や写真を載せた「福平便り」を郵送している。健康状態に変化がある場合等は、その都度電話で知らせている。又、面会時には、日ごろの様子等を話している。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に苦情相談箱を設置しており、また面会時等でも、家族に投げかけて意見や苦情等がないかの問いかけをしている。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営者は多忙な時でも、快く職員の意見に耳を傾け、解決に努めている。管理者として、自分自身管理者になって日が浅く、何事に対しても余裕がなく、職員の意見に充分耳を傾けられていない為、声を掛け易い環境作りに努めていきたい。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	利用者や家族の状況に応じて、勤務変更は随時、臨機応変に対応している。利用者が入居したばかりで不穏な時や家族からの病院受診の依頼等があった場合は、連絡調整を行って、柔軟に対応出来るよう努めている。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は職員の異動が利用者を与えるダメージは、十分確認しているが、各ユニットが均一なサービスとなるようにユニット内の異動をしている。新しいスタッフに対して、充分オリエンテーションを行い、統一したケアを行う事により、ダメージが最小限になるように努めている。		
<b>5. 人材の育成と支援</b>				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新任採用時は、生活の流れの中で実施研修をしている。夜勤者以外全員「谷山地区グループホーム勉強会」に月1回出席し勉強している。法人内外の研修にも積極的に参加している。		
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	谷山地区グループホームは、28のグループが参加していて、同業者の情報交換、交流、勉強、相互訪問が行われたり、サービスの質を向上させていくよう取り組んでいる。		
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	ユニット独自で懇親会や誕生会等開き、ストレス軽減や働き易い職場になる様環境作りを心掛けている。		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	運営者は管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を多方面から把握することに努めている。会社全体の忘年会において、永年勤続者等を表彰したりして、各自が向上心を持って働けるよう努めている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	取初はとつしても家族、担当ケアマネ等からの相談が多いが、利用に至るまでに本人とも面談する機会を作り、本人自身が困っている事、不安な事をよく聴き受けとめるように努めている。言葉で表現出来ない利用者に対しても、日常の行動等から求めている事を把握し解決出来るように努めている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族が納得して安心できるよう、その都度、困っている事、不安な事を傾聴し受けとめるように努めている。	
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族と面談する中で、もっとも必要としているサービスは何であるかを見極めて、それを中心としたサービスが提供出来るよう努めている。	
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人が納得出来るよう、ホームに出入りをして、職員や他の入居者の方と馴染むことが出来るように努めている。急に入所となった場合はご家族に協力して頂き共に食事をしたりして、こまめに声掛けを行ったり、馴染みやすくなるよう支援している。	
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は本人と対等な立場で接しつつ、人生の先輩としての指導を仰ぐという形で一人ひとりの得意な事や好きな事を、日々の生活の中で生かすべき対応をする。自信を持って生活出来るような支援をする。	
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族と職員は、本人を中心にしての同志的立場で喜怒哀楽を共にしつつ、利用者がより安心して生活できる場である様な関係を築いている。	
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	職員は面会時等に入居者の生活暦等のさまざまなエピソードを聞いたりしながら、本人とご家族との関係を理解し、より良い関係が築いていけるよう支援している。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	身体能力の低下により、馴染みの場への外出は厳しい時もあるが、馴染みの人と気軽に面会・外出が出来る雰囲気作りに努めている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	日々の生活の中で、お互いに理解し合える利用者同士を隣や同じテーブルにするなどの、ホームでの生活が孤立せず、楽しい生活の場である様に、常に利用者の人間関係等に気配りしている。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	入院やた施設への入所の為、退所した利用者についても職員は家族と連絡を取り合ったり、面会に行くなどの友好的な関係を保ち続けている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
<b>1. 一人ひとりの把握</b>				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人ひとりのこれまでの生き方や趣味、やりたい事などを、ご本人、ご家族との会話の中や、生活の中から一人ひとりの思い(散歩、買い物、踊りたい、唄いたい等) 意向の把握に努めている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者本人からの情報引き出しが困難な利用者に対しては、家族から生活歴を聞いたり、又日々生活して行く中で、本人を観察する中で把握できる事もあるので、日常生活の細かな事も見逃さず情報収集する様努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日々のミーティング、定期的なケース会議等により一人ひとりの心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するよう努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	毎月のケース会議の中でスタッフ全員の意見を確認した上で、より本人に即したケアを提供する。家族に対しては、折々に触れて本人の状況を説明している。	
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月、夜勤者以外全員で入居者一人ひとりの現状が、ご本人ご家族の意向、現状に即しているか、プランの見直しに取り組んでいる。又、現状の変化があった場合も、ご本人、ご家族、必要な関係者と随時プランの見直しに努めている。	
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録は異変や気付きは細かく記録し、本人の言動についても具体的に、言葉のやり取りも正確、且詳細に記録するようにしている。記録する事により、職員全員が情報共有し統一した支援に繋がっている。	
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>			
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	美容院、通院等の外出支援等、ご本人ご家族の要望に応じた柔軟な支援がなされるように努めている。	
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>			
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	ボランティアの方々による、日舞やゴスペルコンサートを行っている。	
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	本人や家族の要望や必要に応じて、訪問診療（医療・歯科）、鍼灸治療を受け入れたり、福祉用具等の利用、サービスの活用支援に努めている。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	奇数月に開催している運営推進委員会への参加を呼びかけ、他ホームの情報など貴重な意見として、参考にしたり、生かしたりしている。	
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人ご家族の希望するかかりつけ医を優先し、合意の上でかかりつけ医と連携を取りながら支援している。緊急時には、往診を受けられる複数の医療機関の体制も出来ている。受診時の状況を適切に把握する為「病院受診連絡表」を活用している。	
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	利用者の殆どの主治医が、認知症の専門医なので、その都度、必要に応じて職員や家族が相談し、その時々に応じた検査や服薬等の相談等を行っている。	
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	ホーム内の看護師と、日々の状況の変化等連携を取りながら、日常の健康管理を行っている。	
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院の際は面会に行ったり、家族からの情報を得たり又、直接担当医より情報を得たりしながら、早期退院に向けての取り組みをしている。リハビリ等についても進行状況の確認をしている。	
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に重度化、終末期の付いて、ご本人ご家族の意向を書面にて確認している。その方針は全員共有している。また、状況変化に応じて再確認するようにしている。	
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	現在は健康状態が安定しているが、高齢な為、急変は考えられる。健康状態の変化について、主治医、看護師と連携を取り、チームとしての支援に取り組んでいる。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ 移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者 間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替 えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>ホームで知り得た情報やケアプラン等も含めて、 利用者が別の居所へ移り住んでも、混乱や他のダ メージを受ける事がなく、スムーズに溶け込める 様な情報提供をしている。</p>	
<p><b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b> <b>1. その人らしい暮らしの支援</b> <b>(1)一人ひとりの尊重</b></p>			
50	<p>○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるよ うな言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り 扱いをしていない</p>	<p>管理者、計画作成担当者は、日頃一人ひとりを大 切にする、言葉掛けや介護方法を職員と話し合 い、意識の向上を図っている。また、職員はよく 理解して対応している。</p>	
51	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけた り、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決 めたり納得しながら暮らせるように支援をして いる</p>	<p>日々の生活の中で、常に本人がどのように生きた いのかを探りつつ、本人の思いを大切に、不安 なく心豊かに暮らせる様、家族の思いも尊重しつ つ支援している。</p>	
52	<p>○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではな く、一人ひとりのペースを大切に、その日を どのように過ごしたいか、希望にそって支援し ている</p>	<p>ご本人の希望や体調に配慮しながら、起床時間、 個室での食事、買い物、散歩、昼寝、掃除、入浴 等日々その人らしい暮らしの支援がなされてい る。</p>	
<p><b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b></p>			
53	<p>○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができる ように支援し、理容・美容は本人の望む店に行け るように努めている</p>	<p>ご本人の好む色や服を理解し、心地よくおしゃれ が出来るように努めている。外出が困難な方も、 美容師さんに来所して頂き、その人らしい身だ しなみに心掛けている。</p>	
54	<p>○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとり の好みや力を活かしながら、利用者と職員が一 緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>献立を一緒に考えたりして、メニューに好みの意 見を取り入れるようにしている。ご本人の力量に に応じて一緒に菜園の収穫、食事準備を行い、楽 しく会話をしながら同じものを食べている。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	飲酒、喫煙に関しては、ホーム内では該当者は居ないが、嗜好品等については、一緒に買い物に行ったり、家族から差し入れて貰ったりしながら対応している。また、希望に沿って、おやつとして提供するなどしながら、お茶の時間も楽しめる様支援している。		
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	一人ひとりの力や排泄のパターン習慣を理解し、適切に声掛け介助することにより、排泄の失敗やオムツの使用を減らせるように努めている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一番風呂に入りたい人、午後から入りたい人、一人ひとりの希望やタイミングに応じて楽しく入浴出来るように支援している。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	一人で居室に居るのが不安な人、なかなか寝付けない人、さまざまだが、不眠時はホットミルクを飲んでもらったり、話をしたりして、安心して休息、眠れるように支援している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の準備や日々の単純な作業等で一人ひとりに出来ることや得意なことを分担して、ホームの一員としての役割や自信を持って生活出来る様支援する。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人ひとりの希望や、力に応じてお金を所持し、必要に応じて一緒に買い物に出掛けたり、欲しい物を頼まれて買って来たりしながらお金を所持したり使えるようにしている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外食希望の利用者の支援や食材購入の際の同行など、職員が声掛けして1から2名の外出も時々実施している。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	家族にも相談して、美術館や温泉、好きな物を食べに行くなど、利用者の希望の所へ行ける様支援している。		
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話が掛かって来る利用者には、家族に近況を報告後取り次いでいる。また、手紙も来るが必ず返事を出す為、職員が預かりポストに投函している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	いつでも、家族・知人・友人等、本人の馴染みの人達が、いつも気軽に訪問してくれていると思う。居室でゆっくり談話したり、ホールで他の入居者、職員とも談話したり、居心地よく過ごせるように心掛けている。		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に身体拘束委員会を開催し、身体拘束について全ての職員が周知しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関、居室等どこにも施錠していない。外にも自由に出て行けるが、職員は安全性を確認しつつ見守り介助している。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	徘徊の利用者も居るが、行動を制止するのではなく、利用者の動きに合わせて、共に行動したり、見守りしたりしながら常に安全に留意したケアを心掛けている。	
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	掃除用洗剤等、注意の必要なものは扉付きの棚に置いたり、芳香剤はゼリー状でケース入りのものにしたりして危険を防ぐようにしている。	
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	定期的に防災（火）訓練、救急措置の講習、事故防止委員会を開催し、事故防止の為の知識を学び一人ひとりの状態に応じた事故防止に努めている。	
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	救急処置の講習会を1年1回実施し、実際に人工呼吸や異物除去法の訓練を行っている。又連絡網やマニュアルを事務所の目の付きやすい所に設置している。	
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の消防署の訓練や指導で避難訓練を行っている。1階2階また、日中、夜間帯と火災を想定している。	
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	小さな体調の変化等も家族に話したりすることにより、一人ひとりに起こり得るリスクについてご家族に説明し理解してもらえるように努めている。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝バイタルチェック、毎月体重測定を行い、体調の変化が早期発見できるように努めている。又変化や異変に気付いたときは、すぐ看護師に報告し速やかに対応するように努めている。	
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	調剤薬局で個別セットしてもらい、ケアスタッフが間違いなく投薬できるようにしている。又職員は薬の目的や副作用、用法について理解している。与薬チェック表を利用し漏れが無いように努めている。	
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	10時にはオリゴ糖入りのホットミルク、毎日の食事、おやつにも繊維性の食物を多めに摂取するなど工夫している。排便の周期をチェックし水分、散歩（歩行）や腹部マッサージ等も随時行っている。	
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後一人ひとりの状況に応じて声掛けやセッティング、仕上げ磨きを行っている。定期的に歯科医師による口腔チェックを行っている。	
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立については保健センターのアドバイスを受け、一日の栄養バランスを考えた献立作りに努めている。水分が不足がちな人にも工夫して摂取確保に努めている。食事量も一人ひとりにあわせて提供している。	○ 水分補給が充分でない利用者に対しては、家族と相談してお茶ゼリーを作り、更にオリゴ糖を加えるなどして、必要な水分を補給出来るよう対応している。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	インフルエンザ、肺炎球菌ワクチンの接種を行っている。面会時の手指消毒剤・デスポマスクの設置や、ノロウイルス等に対する対処方法、浴室にも設置している。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	毎日、まな板、ふきんの消毒、台所の掃除を行い衛生管理に努めている。 食材は、乾物や根菜以外は、買い置きせず新鮮な物を使用している		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>				
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関は施錠なしでいつでも気軽に出入りできるようになっている。玄関付近や花壇には季節の花を植え、気軽に訪問出来るような雰囲気作りに努めている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	どこも出入り自由であり、カーテンや暖簾を有効に使い、また、庭や畑から季節の花などを摘みテーブルや玄関に飾り、季節感を採り入れている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間にソファやテーブル、和室を設置し気の合った利用者同士思い思いに過ごせるように工夫している。		
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホームの備品であるベットやタンスの外、自宅から持って来た馴染みの身の回りの品々に加えて、大切な家族の写真や思い出の品など一人ひとりの個性ある居室になっている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気の上よみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	細めな掃除、換気を行っている。 必要に応じて消臭剤を使用している。 室温計を設置し、外気温と大きな差がないよう注意している。床暖房により足元から温まり、心地好い。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かし て、安全かつできるだけ自立した生活を送れる ように工夫している	さまざまな所に手すりを設置し、安全かつ出来る だけ自立した生活を送れるようにしている。 トイレのライトは、センサー式にしており、扉は 引き戸で無理なく開閉出来るように工夫されてい る。和室は、一段高くすることにより腰掛けたま ま使用出来る。	
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失 敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫してい る	トイレにはプレートを設置し、分かりやすくした り室名札を設置し、混乱しないようにしている。 混乱や失敗を招くような状況に気付いたら、その 都度、速やかに改善するように努めている。	
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだ り、活動できるように活かしている	外周を職員と一緒に散歩したり、畑の野菜獲り をしたり、又ベランダで日光浴をしたりと、それぞ れ楽しむ方法を生かしている。	

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

## V. サービスの成果に関する項目

項 目		回答
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	① ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	① ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	① ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	① ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	① ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	① ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない

項 目		回答
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	① ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	① ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	④ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	② ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	① ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	① ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	① ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

### 【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

ホームの庭には、入居者と職員が協力して作っている菜園があり、収穫した野菜が食卓にあがっている。  
 天気の良い日は、庭でお茶をしたり季節の移り変わりを、楽しめる様に努めている。  
 入居者の笑顔を大切に、月1回外食の機会をもったり、年1回1泊旅行に出掛けたりと、楽しみ事を作っている。  
 本人らしく暮らしていけるように、職員はゆったりと笑顔で接する事を、心掛けている。